

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「楽器や音楽に触れて 子供たちが音への興味 音楽への興味が増す事」

<テーマの設定理由>

本園では、子どもたちが音楽を通して豊かな感性を育み、表現力や協調性を養うことを目的としている。音楽教育を通じて、子どもたちが音やリズムに親しみ、主体的に楽しむ姿勢を身につけることを期待している。特に、年少時から楽器や音楽に触れる機会を多く設けることで、進級後にはより高度な合奏に挑戦できるようにするため、このテーマを設定した

2. 活動スケジュール

令和6年4月～令和7年3月

- ・月1～2回のリード合奏教室（音楽専門講師指導）
- ・日々のリード練習
- ・保育終了後の職員向け音楽指導講義
- ・2月：大ホールでの音楽発表会（合唱・合奏の披露）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・音楽専門講師による指導のもと、子どもたちはさまざまな楽器に触れ、それぞれの音色や特徴を学んだ。
- ・リズム遊びを取り入れ、音楽に親しむ環境を整えた。
- ・年長組では『交響曲第9番『新世界』より第四楽章』の合奏に挑戦し、練習を重ねた。
- ・2月の音楽発表会では、大勢の観客の前で自信を持って演奏し、成功体験を得ることができた。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

- ・木琴、鉄琴、タンバリン、カスタネット、鍵盤ハーモニカ、打楽器など多様な楽器を用意。
- ・発表会に向けた合奏のため、練習環境を整備。
- ・子どもたちが主体的に取り組めるよう、リズムカードや音符カードを活用。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり>

- ・年少組は楽器の音に興味を持ち、積極的に音を出すことを楽しんでいた。
- ・年中組ではリズムを意識し、友達と協力しながら演奏を行う姿が見られた。
- ・年長組は発表会に向け、より難しい楽曲に挑戦し、達成感を味わうことができた。

＜活動のために準備した素材や道具、環境の設定＞

- 木琴、鉄琴、タンバリン、カスタネット、鍵盤ハーモニカ、打楽器など多様な楽器を用意。
- 発表会に向けた合奏のため、練習環境を整備。
- 子どもたちが主体的に取り組めるよう、リズムカードや音符カードを活用。

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり＞

- 年少組は楽器の音に興味を持ち、積極的に音を出すことを楽しんでいた。
- 年中組ではリズムを意識し、友達と協力しながら演奏を行う姿が見られた。
- 年長組は発表会に向け、より難しい楽曲に挑戦し、達成感を味わうことができた。

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- 年少時からの音楽体験が積み重なることで、子どもたちは進級するごとに高度な演奏に挑戦できるようになった。
- 発表会の成功が自信につながり、子どもたちは「最後までやり切る力」を身につけることができた。
- 職員の音楽指導力向上のため、来年度も専門講師の指導を継続し、さらなる充実を図りたい。
- 音楽を通して、子どもたちが楽しみながら成長していく姿が見られ、今後もこの活動を継続・発展させていきたい。

5. 活動写真

